

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01409

研究課題名(和文) 国立研究開発法人における組織マネジメントと評価のあり方に関する研究

研究課題名(英文) Research of Management and Evaluation on the National Research and Development Agency

研究代表者

南島 和久 (NAJIMA, Kazuhisa)

龍谷大学・政策学部・教授

研究者番号：10404831

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：重要な研究成果としては評価や独立行政法人に関する単著の著作2件(南島和久『政策評価の行政学』(2020年)、西山慶司『公共サービスの外部化と「独立行政法人」制度』(2019年))、国立研究開発法人のJAXAの評価に関する共著の著作1件(南島和久編『JAXAの研究開発と評価：研究開発のアカウントビリティ』(2020年))を刊行した。また、本研究課題に関する研究成果をとりまめる内容として、日本評価学会の学会誌での特集(「科学技術政策とその評価」、『日本評価研究』21(1)、2021年)を組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の科学技術政策については科学史や科学技術社会論からのアプローチは見られるが、組織の内部管理や政策実施過程の解明は進んでいなかった。これらの解明には行政学の貢献が有効と考えられた。行政学の先行研究としては、城山英明の『科学技術と政治』(2018年)がみられたが、国立研究開発法人を対象とする研究は皆無であった。国立研究開発法人は独立行政法人の一種であり、科学技術政策の実施機能を担う位置にあるが、本研究課題ではこの実施機能の解明の手掛かりとして評価に注目した。本研究課題では、国立研究開発法人の組織内部のマネジメントや評価の機能に注目し、これを対象とすることとした次第である。

研究成果の概要(英文)：Important research results include two single-authored works on Policy Evaluation and the Incorporated Administrative Agency System (Kazuhisa NAJIMA, "Public Administration and Policy Evaluation" (2020), Keiji NISHIYAMA, "Externalization of Public Services as the Incorporated Administrative Agency System" (2019)), published a co-authored book on the evaluation of JAXA by the National Research and Development Agency (edited by Kazuhisa NAJIMA, "Research and Development and Evaluation of JAXA: Accountability of Research and Development" (2020)). In addition, as a content surrounding the research results on this research subject, a special feature ("Science and Technology Policy and its Evaluation", Japan Evaluation Research, 21 (1), 2021) was organized in the journal of the Japan Evaluation Society (JES).

研究分野：行政学

キーワード：科学技術政策 研究開発 アカウンタビリティ JAXA 国立研究開発法人 独立行政法人 政策評価 研究開発評価

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、独立行政法人通則法の改正（平成 26 年法律第 66 号）によって誕生した「国立研究開発法人」の組織マネジメントおよび評価のあり方を検討することを目的としていた。

本研究課題への着手当初は、2015 年に国立研究開発法人が発足したばかりであり、中長期目標・計画も従前の計画期間が継続しており、新たな中長期目標・計画はこれからという段階であった。国立研究開発法人は実態として旧来の独立行政法人時代の運営手法で運営されており、これから新たに国立研究開発法人としてのスタートを切ろうという段階にあった。

旧来の独立行政法人と新たな国立研究開発法人の決定的な違いは「評価」のあり方にあった。2013 年に閣議決定された「独立行政法人改革等に関する基本方針」では、「独立行政法人が実施する事務・事業には多様なものが含まれるが、現行制度では法人分類を設けておらず、多くのルールが全法人一律に適用されている。今後は、法人の政策実施機能の強化を図り、適切なガバナンスを構築していくため、法人の事務・事業の特性に応じ、法人を分類することが必要である。」とされていた。とくに国立研究開発法人については、「業務に係る成果の最大化や質の向上に必要な目標管理の仕組みの在り方」が問題視されており、「研究開発型の法人についても、他の独立行政法人と同様に『中期目標管理 - 評価』という枠組みが最適であると考えられるが、研究開発業務の特殊性（長期性、不確実性、予見不可能性、専門性）を踏まえると、当該法人に期待される研究開発成果の最大化という観点から、独立行政法人制度の個々のルールや運用を大胆に見直し、独立行政法人制度の下で、研究開発型の法人の機能の一層の向上と柔軟な業務運営を確保することが求められる。」とされていた。

ただし、「評価」の具体的な方法論については、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」がある一方で政策評価制度、独立行政法人制度、行政事業レビューの取組などが林立しており、安定的な研究開発評価が構築されているとは言い難い状況にあった。さらに、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」においても「評価疲れ」が言及されるなどしており、国立研究開発法人の部内においても、各種の評価制度とどのように向き合うべきかという整理が十分になされておらず、マネジメント上の大きな課題となっていた。

2. 研究の目的

本研究課題では、上述のような問題状況について本研究課題に参加した JAXA の職員と課題認識を共有した上で、独立行政法人側のマネジメントに焦点を当て、組織管理の面から制度運用の実態を浮き彫りにしつつ、健全な組織運営のあり方や適切な評価体系の構築を目指すこととしていた。

そこで、本研究課題への着手の当初、以下の 3 つの「問い」を設定した。第 1 に「主務官庁との間に生じるアカウンタビリティのジレンマをいかに克服するのか」である。第 2 に「国立研究開発法人という組織形態の下でいかなるマネジメントが最適か」である。第 3 に「国立研究開発法人という新たな組織形態の下での評価のあり方をどのように構築するのか」である。

以上の問いを通じ、本研究課題は、新たに誕生した国立研究開発法人のあり方に適した組織マネジメントや評価手法について、具体的な処方箋を描き出すことを目指そうとしていた。

3. 研究の方法

本研究課題への着手当初、日本の科学技術政策に関する学術的なアプローチとしては、科学史や科学技術社会論（STS）からのアプローチが主流であった。ただし、これらのアプローチは組織の内部管理や政策実施過程の解明には踏み込まないものが多く、法人内部の実態解明は十分とはいえない状況にあった。そこで、本研究課題では、組織の内部管理や政策実施過程の解明のために行政学の貢献が必要であると考えた。行政学は公的組織の内部管理や政策実施過程の解明を本務とする分野であったからである。

行政学の分野の先行研究としては、城山英明の『科学技術と政治』（2018 年）が登場し、注目されていた。だが、そもそも独立行政法人に関する研究も評価に関する研究も行政学の分野においても質・量ともに十分とはいえない状態にあった。いいかえれば、本研究課題が掲げる研究テーマは先駆性が高く、オリジナリティも高い状態にあったということである。そこで、国立研究開発法人を対象とする研究に本格的に着手することとなった。

国立研究開発法人は独立行政法人の一種であり、科学技術政策の実施機能を担う位置にある。また、本研究課題ではこの実施機能の解明の手掛かりとして「評価」に注目するが有効であると考えていた。具体的には JAXA 内部の「評価」関連部局への聞き取りを中核に据え、JAXA 内部の研究員に対して「評価」に関するアンケート調査を行い、JAXA を手がかりとしつつ国立研究開発法人の組織内部のマネジメントやその手段としての「評価」の機能の解明を試みようとしたのである。

本研究課題の主たる研究の方法については聞き取りやアンケートが中心であった。組織内部の聞き取りやアンケートでは、本研究課題に参加した JAXA 職員に重要な貢献をいただいた。

4. 研究成果

本研究課題の著作としての重要な研究成果は評価や独立行政法人に関する単著の著作2件(南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』(2020年)、西山慶司『公共サービスの外部化と「独立行政法人」制度』(2019年))、国立研究開発法人のJAXAの評価に関する共著の著作1件(南島和久編『JAXAの研究開発と評価：研究開発のアカウンタビリティ』(2020年))の3つの研究書の刊行であった。また、本研究課題に関する研究成果をとりまとめる内容として、日本評価学会会誌での特集(「科学技術政策とその評価」、『日本評価研究』21(1)、2021年)を組んだことも重要な研究成果となった。このそれぞれの研究成果について以下のとおりである。

第1に、南島和久の『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』(2020年)についてである。同書の重要な点は評価の理論的整理にある。その要点は以下のとおりである。

まず、公的部門の評価は複数の意味をもつ。具体的には、公的部門の評価は、アカウンタビリティの要請、経済合理性の要請、組織内の意識改革の要請、現状維持の要請の4つのモードのせめぎ合いのなかで展開している。それぞれのモードは相互に緊張関係にあると同時に、相互に異なる志向性をもつ。具体的には、アカウンタビリティの要請から評価の制度化が進行する。だが、他方では経済合理性の要請から数理アプローチが推奨され、定量的な数値目標管理や社会実装の定量的表現が求められることとなる。また組織内の意識改革を目的とし、現場での目標設定や掲げた目標に向かって改革していくことが求められる。だが、実際の現場においては、現状維持の要請が強く、「評価疲れ」といわれるように、評価活動そのものが疎まれている。以上のような議論をNPMの国際比較研究で知られるクリストファー・フッドらの研究を手がかりに理論的に明らかにしたのが本書の特徴であった。このほか、アメリカ合衆国の評価制度の経験や国の政策評価制度の導入から展開までを通史として描き出している点も同書の特徴であった。

第2に、西山慶司の『公共サービスの外部化と「独立行政法人」制度』(2019年)についてである。同書の重要な点は中央省庁等改革時の独立行政法人制度の発足から国立研究開発法人制度の誕生までを整理していることにある。独立行政法人制度に関する著作は実務的なものに限られており、行政学分野における研究としては同書が発点となったと言っても過言ではない。また、同書では独立行政法人制度のモデルとなった英国の執行エージェンシー制度と日本の独立行政法人制度の比較も行っており、民主党等連立政権時の事業仕分けや行政事業レビューでの主要な論点も網羅されていた。この民主党等連立政権時の改革のアイデアは2015年に研究開発法人を生み出した独立行政法人制度改革のアイデアの基礎となったものである。

第3に、南島和久編『JAXAの研究開発と評価：研究開発のアカウンタビリティ』(2020年)についてである。同書の重要な点は、JAXAの研究開発部長である張替正敏と本研究課題に参加し、当時日本評価学会会長であった山谷清志との対談を通じて、あるべき研究開発の姿やあるべき研究開発の姿を分かりやすく描き出している点にある。同書は研究というよりも啓蒙的な観点を重視した著作であるが、これはJAXA側の本研究課題への協力を引き出す意味においても重要なものとなった。同書は対談をベースとしているがゆえに論点は多岐にわたるが、研究開発業務の特殊性(長期性、不確実性、予見不可能性、専門性)について示唆的な内容を含むとともに、多元重層的な評価をどのように研究開発に生かして行くべきかという展望を論じている点に特徴がある。また、JAXA内部の研究開発評価の実態が垣間見える点も重要であった。

第4に、南島和久が特集企画責任者として関与した日本評価学会の会誌での特集(「科学技術政策とその評価」、『日本評価研究』21(1)、2021年)についてである。特集の内容は、本課題研究の構成員の業績としては、南島和久「研究開発評価をめぐる諸課題：なぜ、研究開発評価は難しいのか」、西山慶司「独立行政法人制度における目標管理と評価：国立研究開発法人の観点から」、橋本圭多・宮崎英治・柳瀬恵一「国立研究開発法人における研究評価の現状と課題：JAXA研究開発部門の事例」、山谷清秀「大規模研究開発と地域政策をめぐる問題の構造：なぜアカウンタビリティは混迷するのか」の4本がある。このほか、本特集には、白川展之「多様な研究評価の方法論と科学技術政策の評価：科学技術政策の特質と政策過程が孕むアポリア」、

定松淳「原子力損害賠償『過去分』についての政治的調整過程の分析：多角的政策評価の試み」、

村上裕一「科学技術政策におけるモニタリングとアドバイス：フランスの試行錯誤を踏まえた評価の改善策」も含まれている。からは本研究課題の総括として提示したものであり、これまでの日本評価学会や公共政策学会における研究の総括となった。とくに、は科学技術イノベーション事務局などへのこれまでの聞き取りの成果を含め、第1期から第5期までの科学技術基本計画と評価との関係や独立行政法人評価や政策評価との関係を整理した。また、はJAXA内部で行った研究開発評価に関するアンケート調査を公表するものであった。なお、からについては本研究課題の構成員以外の研究者によるものであるが、本研究課題の後継の研究課題(「国立研究開発法人における体系的評価の構築に関する研究」、22K01318、R4~R6)に参加するメンバーに執筆を依頼した。これらはいずれも査読付き論文であり、研究開発評価に関する最新の知見を披露するものであると同時に研究会を拡大させる基礎ともなった。

本研究課題の研究成果には上記以外の論文や学会発表が多数生み出されている。具体的には論文15件、学会発表23件および上記以外の図書として、日本評価学会の主要メンバーの参加を求めてプログラム評価のテキストとして刊行した『プログラム評価ハンドブック』(2020年)(山谷清志監修。本研究課題からの寄稿者は山谷清志及び南島和久)を挙げている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山谷清志	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 政策学における評価理論の貢献	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『同志社政策科学研究』	6. 最初と最後の頁 159-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南島和久	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 研究開発評価をめぐる諸課題：なぜ、研究開発評価は難しいのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本評価研究』	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山慶司	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 独立行政法人制度における目標管理と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本評価研究』	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本圭多, 宮崎英治, 柳瀬恵一	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 国立研究開発法人における研究評価の現状と課題：JAXA研究開発部門の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本評価研究』	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山谷清秀	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 大規模研究開発と地域政策をめぐる問題の構造：なぜアカウンタピリティは混迷するのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本評価研究』	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南島和久	4. 巻 722
2. 論文標題 政策と選挙：有権者による評価・終了	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方自治職員研修	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南島和久	4. 巻 49
2. 論文標題 参議院と行政監視機能：政策の合理化と透明化を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 評価クォーターリー	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南島和久	4. 巻 48(3・4)
2. 論文標題 政策実施過程の事例とその分析枠組 原発再稼働とリスク・ガバナンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸学院法学	6. 最初と最後の頁 81-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山谷清志・韓廷文	4. 巻 21 (2)
2. 論文標題 比較政策学と評価ポリシー比較の課題 - 日韓比較から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社政策科学研究	6. 最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山谷清志	4. 巻 19
2. 論文標題 平成時代と公共政策研究の30年 - 『遠心力』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公共政策研究	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本圭多	4. 巻 48 (3・4)
2. 論文標題 政府間関係のなかの参加と評価 政策過程の変容と行政責任	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸学院法学	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山谷清秀	4. 巻 19 (3)
2. 論文標題 科学技術政策の多面性及び地域政策との交錯 - 科学技術政策をめぐるアカウンタビリティの混迷 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本評価研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南島和久	4. 巻 51 (3・4)
2. 論文標題 国の研究開発評価をめぐる2つのアプローチ アウトカムとアカウンタビリティの錯綜	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法政理論	6. 最初と最後の頁 32-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山慶司	4. 巻 67 (3・4)
2. 論文標題 独立行政法人制度と研究開発評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 151-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本圭多	4. 巻 48
2. 論文標題 日本の科学技術行政における評価の現状	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 評価クォーターリー	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山谷清志
2. 発表標題 科学技術政策に求められるアカウンタビリティと評価
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南島和久
2. 発表標題 国立研究開発法人における評価の論点と課題－科学技術基本計画との関連において－
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西山慶司
2. 発表標題 独立行政法人制度と研究開発評価 研究開発法人評価の観点から
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 国立研究開発法人への民主的統制と評価 宇宙航空研究開発機構を事例として
3. 学会等名 日本公共政策学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 科学技術政策の評価と統制 政策評価・管理評価・研究評価
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山谷清秀
2. 発表標題 地域・社会・市民と科学技術政策 - 科学技術は誰に何を求められているのか -
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎英治・柳瀬恵一
2. 発表標題 研究開発評価の未来像
3. 学会等名 日本評価学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎英治、柳瀬恵一、橋本圭多、定松淳、山谷清秀
2. 発表標題 研究開発評価にまつわる研究現場の悩み
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳瀬恵一、宮崎英治、橋本圭多
2. 発表標題 新しい発想を生み成果を育てる研究開発評価の提案：研究者の視点から
3. 学会等名 第64回宇宙科学技術連合講演会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南島和久
2. 発表標題 評価学と政策過程：再論
3. 学会等名 日本評価学会第20回全国大会（高知大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山谷清志
2. 発表標題 行政と評価のアカウンタピリティ「再考」
3. 学会等名 日本評価学会第20回全国大会（高知大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山慶司
2. 発表標題 公共サービスの外部化と独立行政法人制度：国立研究開発法人における組織マネジメントと評価を踏まえて
3. 学会等名 第10回マクロ政策分析研究会（山口大学東アジア研究科・経済学研究科）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 政府間関係のなかの参加と評価 政策過程の変容と行政責任
3. 学会等名 日本評価学会第20回全国大会（高知大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 日本の府省横断的予算における政策の主流化
3. 学会等名 日本評価学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山谷清秀
2. 発表標題 自治体における行政と政策の統制
3. 学会等名 日本評価学会第20回全国大会（高知大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山谷清志
2. 発表標題 評価におけるアカウンタビリティとマネジメントの相克
3. 学会等名 日本評価学会春季第15回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山谷清志
2. 発表標題 評価制度の断片化によるアカウンタビリティの散逸
3. 学会等名 日本評価学会第19回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南島和久
2. 発表標題 政策評価と独立行政法人評価の根源的課題
3. 学会等名 日本評価学会春季第15回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南島和久
2. 発表標題 大学の組織と評価 そのディメンジョン
3. 学会等名 日本評価学会第19回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 日本の科学技術行政における評価体制の問題
3. 学会等名 日本評価学会春季第15回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本圭多
2. 発表標題 行政と評価間関係 研究開発評価・政策評価・独立行政法人評価
3. 学会等名 日本評価学会第19回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山谷清秀
2. 発表標題 科学技術政策・行政におけるアカウンタビリティの混迷
3. 学会等名 日本評価学会春季第15回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西山慶司
2. 発表標題 独立行政法人制度と研究開発の評価
3. 学会等名 行政共同研究会第154回（早稲田大学早稲田キャンパス3号館）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 山谷清志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 プログラム評価ハンドブック	

1. 著者名 南島和久編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 84
3. 書名 JAXAの研究開発と評価：研究開発のアカウンタビリティ	

1. 著者名 南島和久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 218
3. 書名 政策評価の行政学：制度運用の理論と分析	

1. 著者名 西山慶司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 222
3. 書名 『公共サービスの外部化と「独立行政法人」制度』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 圭多 (HASHIMOTO Keita) (60755388)	神戸学院大学・法学部・准教授 (34509)	
研究分担者	山谷 清秀 (YAMAYA Kiyohide) (20803084)	青森中央学院大学・経営法学部・講師 (31106)	
研究分担者	西山 慶司 (NISHIYAMA Keiji) (30791842)	山口大学・経済学部・准教授 (15501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山谷 清志 (YAMAYA Kiyoshi) (90230599)	同志社大学・政策学部・教授 (34310)	
研究分担者	宮崎 英治 (MIYAZAKI Eiji) (90323815)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構・研究開発部門・主任研究開発員 (82645)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関